



梅花帖



梅花園記

梅分一子室ありをりて十子

一子畫室をりて十子

一子画室をりて十子

一子画室をりて十子

一子画室をりて十子

一子画室をりて十子

一子画室をりて十子



梅の香を愛する

梅の香を愛する

梅の香を愛する

梅の香を愛する

梅園

梅の香を愛する

梅園

梅の香を愛する

梅の香を愛する

梅園

梅の香を愛する

梅の香を愛する

梅の香を愛する

梅の香を愛する

梅の香を愛する

梅の香を愛する

山間乃穴を遊ばし

野秀

梅の香を愛する

梅園

梅の香を愛する

梅園

梅の香を愛する

梅園

梅翁園の梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅の香はすこやかに咲くやうに
念ふと即

梅の香はすこやかに咲くやうに
念ふと即

梅の香はすこやかに咲くやうに
念ふと即

梅の香はすこやかに咲くやうに
念ふと即

梅の香はすこやかに咲くやうに
念ふと即

梅の香はすこやかに咲くやうに
念ふと即

梅の香はすこやかに咲くやうに
念ふと即

梅の香はすこやかに咲くやうに
念ふと即

梅の香はすこやかに咲くやうに
念ふと即

梅の香はすこやかに咲くやうに
念ふと即

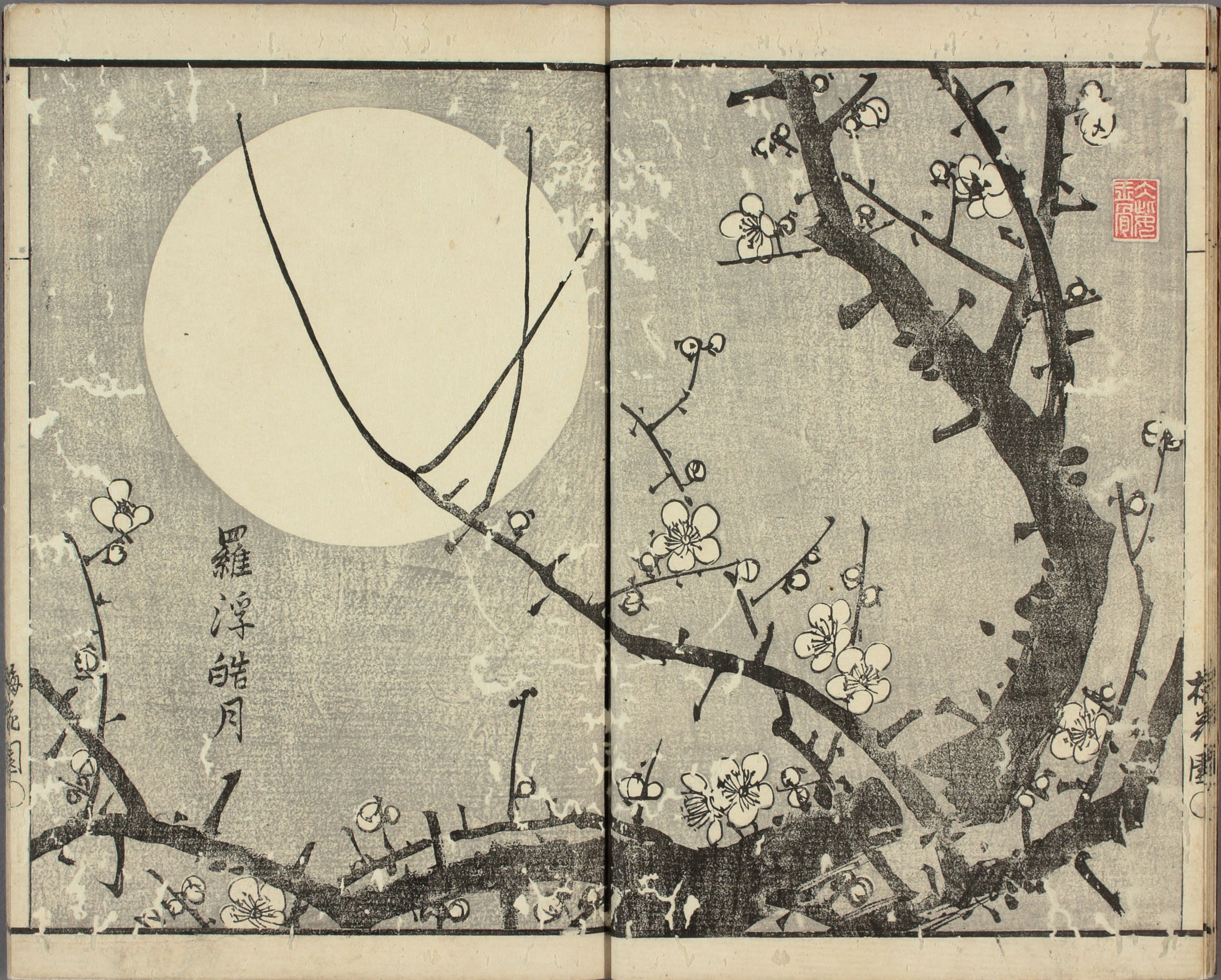
梅の香はすこやかに咲くやうに
念ふと即

梅の香はすこやかに咲くやうに
念ふと即

梅の香はすこやかに咲くやうに
念ふと即

梅の香はすこやかに咲くやうに
念ふと即

梅の香はすこやかに咲くやうに
念ふと即



羅浮皓月



梅月

梅月



一枝粉句

梅花喜神譜

梅花喜神譜



聚



滿
林
珠

梅
花
圖



幽巖

賸馥

掛枝圖

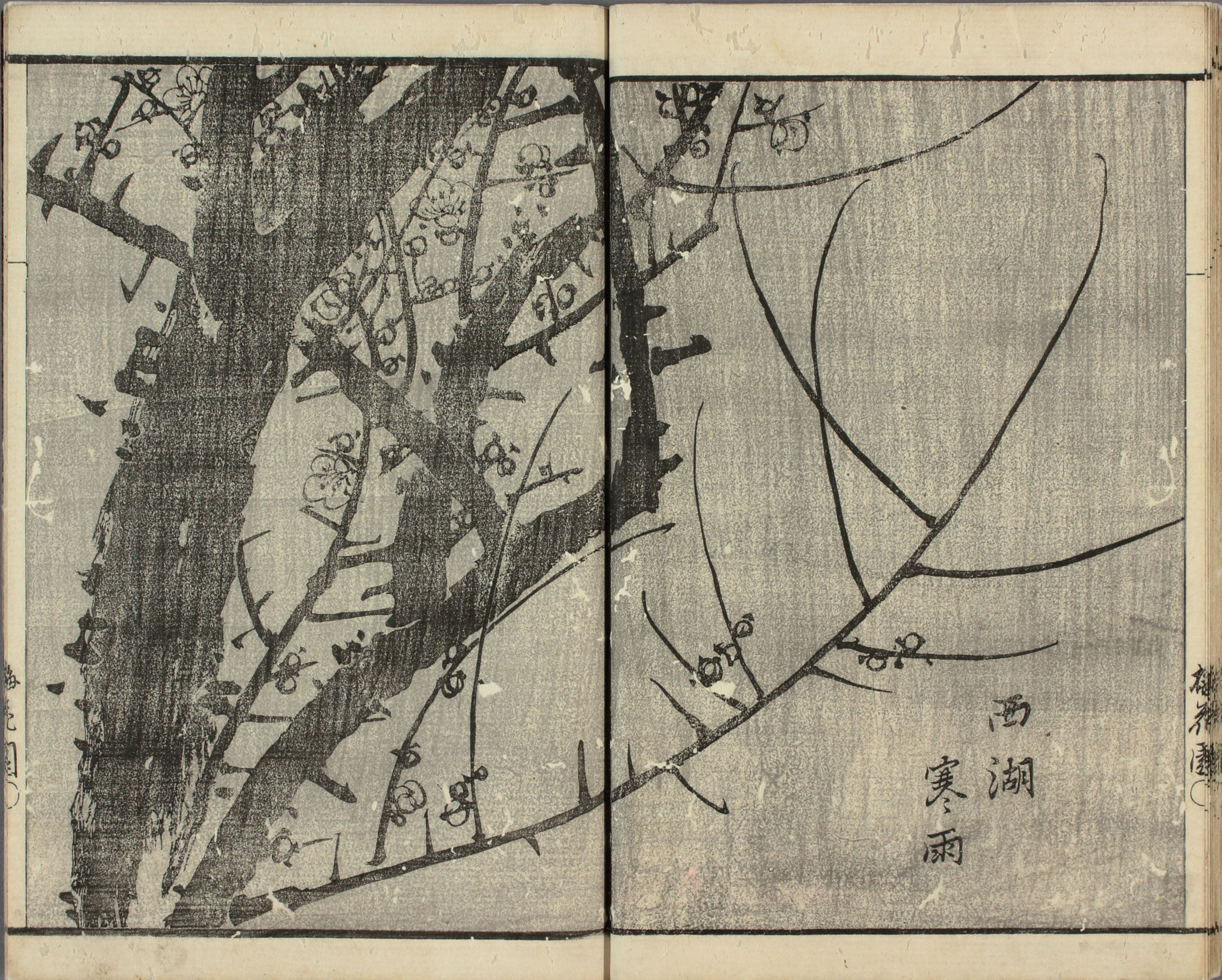
梅

風岸增韻



梅

梅



西湖
寒雨

蘇軾詩

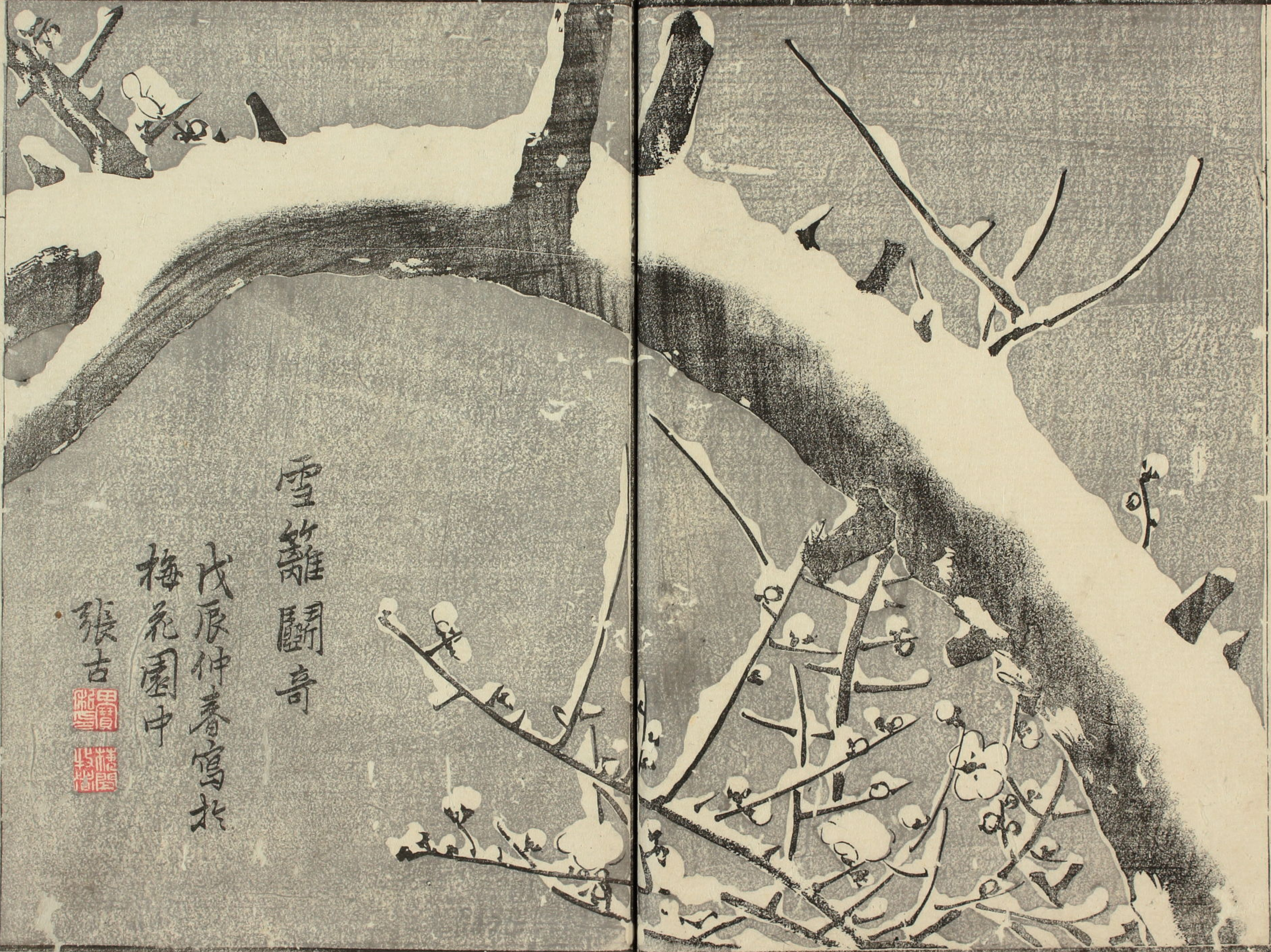
蘇軾詩

晴潭弄姿



梅竹图

梅花图



雪籬鬪奇

戊辰仲春寫於
梅花園中

張古



梅花園

梅花園

梅のつぼみ吹くも世中の塵平同
 花をあたふ梅さのけりあなうめ鬼八島
 母のあゝと母を梅の長者が社系
 うめ香の精のきりし日えの山 宇洋
 子母のあゝと母えつしえれをれ竹
 叶のあゝと母えつしえれをれ竹
 くのあゝと母えつしえれをれ竹

古枝をあたふしと母えつしえれをれ竹
 朝のつぼみ吹くも世中の塵平同
 梅のつぼみ吹くも世中の塵平同
 夕方をあたふしと母えつしえれをれ竹
 月ひのけりあなうめ鬼八島
 小梅灯かくも梅の長者が社系
 うめ香の精のきりし日えの山 宇洋

梅の風鏡うすく
く母法はましく下女

物うまき

梅の風鏡うすく

手背目の梅うすくし梅花 宣旨

ふれぬうすくし梅花の美 秋園

梅の風鏡うすくし

梅の風鏡うすくし

梅の風鏡うすくし

梅の風鏡うすくし

梅の風鏡うすくし

えのくはなはしめりか

梅乃もれ李皇 あつのこふ 梅の花 あもすふ花 公兄

芽也や早もくもみれ

めのみ 舞 ま 道 時をさし 花叙

山雲

二日月 梅比と

も也 聖風あ梅の

翠 あまのこ 井

垣の物 あこい 茶 株のこ 浦旦

あ さし ぬ さし や

あ あ の あ の あ の あ の

梅の 玉 洋

あ さ の あ の あ の あ の

あ あ の あ の あ の あ の

あ あ の あ の あ の あ の

梅よよほらうと

雲霧

若あひす

なれい 霧をひき

多しこをり物

うたひをまき月

梅の世ぬりはり雨交

蒼あじさの

くまを雨の梅

もしのめさうし

梅おや

うたひ

ちのけはにんふ
人めえうり

めさし知る坂

いづれの
梅の

うたひ 梅

たさのしそつそも

月と梅のまかしの枝も梅

さういふ口あはま境中ふ成りや空

多つさうく梅めあふ 菊の 河の南の

さういふ梅のまふふ

真なる梅を

はくさく 新さく梅の月おまふは 事

梅の音よあふひのわたりや文書人

梅の香や木に傳ふしりる山の上まき

梅の香は木に傳ふしりる山の上まき

梅の香や木に傳ふしりる山の上まき

人の折の枝もものしき

久しやあせ

あせを梅の香

梅の香

ちよあせしのみよ上り

梅花園梅見

雲の影にま枝

志るしりりたのま枝

天老

志るしりりたのま枝

志るしりりたのま枝

花の香

不きあうまのたのま枝

春の香や木に傳ふしりる山の上まき

梅の香

月白鼻

山居

梅の香

梅の香

梅の香

梅の香

山居

梅翁

すくぬらうのよき年一りりり初の色は

くはもすく梅候ふ者て啼露しづめ小梅

むつあしし事あるはそよ梅岩を忍ぶ
身は木深くを望む知れぬ那子のとく
そよはふそあまらぬ花 梅園

文化五年戊辰春上梓

